

博士課程

2019

授業科目 〈シラバス〉

沖縄県立芸術大学大学院
芸術文化学研究所

授業科目〈シラバス〉について

この「2019 授業科目〈シラバス〉」は、平成 31 年度に大学院芸術文化科学研究科で開講される（一部休講科目を含む。）授業科目について、各担当教員から提出された授業科目〈シラバス〉をまとめたものです。履修計画や年間の学習計画を立てる際に利用してください。

なお、履修案内については、別冊「履修便覧」に記載しています。

1. 集中講義科目については、単位数・学期欄の（）内に表記されています。
2. 担当教員名欄には、科目の指導担当教員全員の氏名が記載されています。
3. 担当教員名欄の（客）は客員教授を、（非）は非常勤講師を表します。
4. 履修上の留意点には、履修の条件や注意事項のほかに、履修にあたり心掛けるべき点、学生への要望等が記載されています。

大学院芸術文化学研究科開設授業科目一覧表

科目コード	科目名	単位	学期	履修年次	授業区分	ページ
90112	芸術表現総合比較研究 I	2	通年	1・2	演習	1
90113	芸術表現総合比較研究 II	2	通年	2・3	演習	2
90228	比較美学研究A	2	後期	1・2	講義	3
90229	比較美学研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	4
90230	比較芸術学特殊研究A	2	前期	1・2	講義	5
90231	比較芸術学特殊研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	6
90242	日本芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	7
90243	日本芸術批評史研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	8
90244	東洋芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	9
90245	東洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	10
90234	西洋芸術批評史研究A	2	後期	1・2	講義	11
90235	西洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	12
90216	民族工芸論研究	4	通年	1・2	講義	13
90217	映像論研究	2	前期(集中講義)	1・2	講義	14
90246	日本芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	15
90247	日本芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	16
90248	民族芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	17
90249	民族芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	18
90251	東洋芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	19
90252	東洋芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	20
90250	民族芸術学特論	2	後期(集中講義)	1・2	講義	21
90238	東洋工芸史研究	4	通年	1・2	講義	22
90220	西洋音楽史研究	4	通年	1・2	講義	23
90221	日本音楽史研究	4	通年	1・2	講義	24
90223	民族音楽学研究	4	通年	1・2	講義	25
90224	琉球音楽論研究	4	通年	1・2	講義	26
90225	民族舞踊学研究	4	通年	1・2	講義	27
90226	民俗芸能論研究	4	通年	1・2	講義	28
90227	琉球楽劇論研究	4	通年	1・2	講義	29
90239	楽曲分析研究	2	後期	1・2	講義	30
90240	アートマネジメント研究	2	通年	1・2	演習	31
90241	芸術学研究	2	通年	1・2	講義	32

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
90112	芸術表現総合比較研究 I	2単位 通年	1・2	演習	芸術文化学研究科 各指導教員 又は担当教員

■テーマ

芸術理論と実技の統合

■授業の概要

実技と理論の総合を目指すことを目的として設けられた科目である。芸術の題材、表現方式等について、創作・演奏・演出等の実際に則して総合比較研究を行い、芸術表現の本質と各ジャンルの特性を明らかにすることを目標とする。

博士論文作成をめざす学生は、自己の研究課題に関連する実技について指導を受けるとともに、専門分野の異なる研究者の指導・助言を受けることを通して、共同研究を行う。研究作品・研究演奏と博士論文の作成をめざす学生は、自己の研究課題やそれに関連する分野の学術研究について、他の教員の指導を受けられることを通して、共同研究を行う。いずれの場合も、具体的な内容は指導教員がコーディネートするので、指導教員とよく相談して計画を立てること。

学生の研究課題によっては、芸術文化学研究科担当教員以外の教員（非常勤講師を含む）の指導を受けられることも可能である。

■到達目標

- ・ 自己の研究課題を充実させることのできる学習成果、研究成果をあげること。

■授業計画・方法

学生の研究テーマに沿って、担当する教員または非常勤講師を決め、その教員と学生の担当教員との共同により演習を進める。定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・ 学生の主体的な研究が求められる。

■成績評価の方法・基準

□方法

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

コーディネートする指導教員が、指導に関与した各教員と協議の上、平常の当該研究への取り組みについて（50%）、またはレポート等の成果をふまえ（50%）、総合的に評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書

□テキスト

□参考文献

特になし